

国頭村へき地教育研究会 東2校研究授業

(1) 単元名： 順序や様子を考えて読む

教材名：「さけが大きくなるまで」

本時の教材「カエルのたんじょう」（補助教材）：種村ひろし

(2) 本時の目標： おたまじゃくしから子ガエルへの成長過程を読み取ることができる。

国頭村には、へき地の小学校が5校ある。先日西3校（北国小・奥小・佐手小）の授業研究会が北国小で行われた。本日は、国頭村の太平洋に面する東海岸の2校、安波小と安田小の交流校内研修（授業研究会）である。3人の子どもを、大人（教師）11人が見守る授業研究会となる。

国頭村のへき地校では、集合学習や、交流授業が日常的に行われている。近隣校とは言え、気心が知れて同僚性が高い。研究授業後の研究協議会も笑顔で対話される。授業者へ敬意が向けられみんな謙虚に語る。授業の内容が補助教材を題材としたかなりレベルの高い授業研である。私も敬意をもって慎ましく参観させていただきました。



[授業開始] 1年生女の子1名、2年生女の子2名、計3名。教師に余裕が出た。実にしっとりしている。



写真①

授業者は、あえて課題のレベルを上げて、3人が関わる場を必然のこととする授業をデザインした。教師冥利である。前時までの授業の中で「3人の方がやっぱり安心」と言う子どもの声を聞き逃さなかった。写真①、本時も音読の後、3人で「時」や「様子を表す言葉」を見つけていった。写真②、音声と文字がまだ一致しない。音読を進めながらも子どもの指先を、音読に合わせて案内する教師の手である。



写真②

[拡大教科書を使って] 「時」「場所」「様子や大きさ」について3人で見つけて学び合う。（関わる場①）



ここでも、拡大教科書が有効に使われる。他者の気づきから学び、自分との違いから学び、新たな感性や知識が自己に内化されていく。慎ましく学びの時間が進行する。気づきを言い合うのではなく、しっとり聞き合っている。ペンも互いに譲り合いながら、自分の主張より相手への気遣いが優先されている。

子どもから素敵な気づきがでた。「手や足は出てきたが、しっぽがだんだん細くなってきている。」教師も、「ほんとだ〜」笑みで共感する。さすが子どもの目である。気づいた大人がいただろうか。

[カエルの成長ワークシートを各々まとめる] 本文と写真、キャプションを対応させながら整理する。

カエルの成長を順序にそって、その「時」の様子を、特徴をおさえながら絵で表現する。



写真③



写真③、先ほど3人で書き込みした拡大教科書をじっくり見つめていた。実は1年生である。文と写真を何度も確かめながら、お姉ちゃんたちの作業をまねて進める。



【共有する】 それぞれのワークシートを見せ合い交流する（関わる場②）



授業者は、お互いの良いところを認め合ったり、アドバイスし合うように促す。お互いのアドバイスも柔らかくしっとりした言葉で、全く嫌みや批判的な声は聴かれない。

驚きの光景があった。読みの段階で音声と文字が一致していない女の子もしっかり友達のシートへアドバイスし



ていたのだ。授業者があえて絵で表現させた意図に脱帽である。やはり授業デザインは最もこの子たちのことを知る担任の判断（できること、やりたいこと等）が一番正しく、子ども達を安心して「学び」へ案内してくれる。素晴らしい。授業者の気遣いと配慮に、子ども達もしっかり笑顔で応えてくれる。

【授業終末】 同じを見つけ、違いを見つけ、友達のシートから学び、お互いにアドバイスしさらに自己へ。



人、モノ、事、から「学び」自己の変容を図る。他者の言葉を素直に聴き入れ、謙虚に自己を見つめ直す。授業者：「今日もカエルさんのこといっぱいわかってよかったね。…終わろっか。」



【授業終了後】 デジタルテレビにオタマジャクシの動画が映し出された。女の子、すぐに飛びつく。



教師から指棒を受け取って語り始めた。この子はもしかすると活字は苦手だけど、絵（動画等）や言葉には敏感ではないだろうか？…あるいは「これ（絵）だったら分かる。」があるのではないだろうか？…楽しそうに語るこの子の「分かりたい」と「分かってほしい」を常に受け入れてほしい。

これからの3人の日常生活の中で、オタマジャクシとカエルにかぎらず、この子たちの「小さな生き物」を見つめる目に、変容が起こることは明白であるような気がする。・・・私たち人間も地球上生物の、「1種、ただの1つの生物」であることにつなげたい。

【授業観察】

- ☆ 授業提供者へ敬意をもつこと（参観者は謙虚に）
- ☆ 授業観察マナーを知ること（校内研等で確認する）
- ☆ 授業で何を観る、「学び」授業観察視点を持つこと
- ☆ 子どもの表情や言葉に注意を向けること

【研究協議会】

- ☆ すべての参観者が語ること
- ☆ 慎んで、本音で聴き合うこと
- ☆ アイデア・工夫、不安や疑念も共有する
- ☆ 本日の「私の学び」をもつこと



【研究協議会参観者より】

- ・ 補助教材の活用について→この子たちのレベルに合わせて準備した挑戦教材。教育課程の工夫が必要になる。→（時数の調整の仕方）
- ・ 教えて覚えさせる授業から「自ら探究していく」授業デザインになっていた。お互いが気づきを語り、聴き合い、「分かりたい」に向かっていた。
- ・ ワークシートでの「学び合い」では、3名の確かなアドバイスや「？について」聴き合っていた。
- ・ 2年生の女の子の成長がしっかりうかがえた。
- ・ 3名の個人差に配慮されていた。→ 教師がもう少し距離を置いて、3名にあずけてみるのもいいのでは？
- ・ 授業者の、教材研究（教材開発、教具の工夫、授業デザイン等）がしっかりなされた授業だった。
- ・ へき地校はへき地校らしく、小さな授業研究会の繰り返しを大事にしたい。

T・A先生今回も素敵な授業ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい